令和７年度第１回厚木市里地里山保全等促進委員会　会議録

〔会議主管課〕環境農政部環境政策課

〔日　　　時〕令和７年７月30日（水）14時から14時55分まで

〔場　　　所〕あつぎ市民交流プラザ603

〔出　席　者〕厚木市里地里山保全等促進委員会委員　６人

　　　　　　　事務局（環境農政部長、環境政策課長、環境政策係長、環境政策係

主任、環境政策係主事、）５人

１　開会　環境政策課長

２　案件

(1) 令和６年度里地里山保全等促進条例の運用状況について

【質疑・意見】

（A委員）

　　PR動画を作成されたということですが、松蔭大学でも動画制作など実施しており、県などと一緒に制作しているので協力できるかと思う。

（事務局）

　　里地里山に関する事業に関わらず、動画制作の場合はご相談させていただきたい。

（B委員）

　　基金について、支出については資料からわかりますが積立額はいくらか。

（事務局）

　　現在新たな積立額はございません。

　　過去にふるさと納税の寄付金の使い道として里地里山保全に関する事業を選んでいただいた際に本基金として積み立てていたが、現在は本基金に対する新たな積み立てはなく、支出のみである。

（C委員）

厚木市としては、既存の団体に学生ボランティアを動員したいのか。団体側もそれを望んでいるのか。

（事務局）

　　学生ボランティアを希望する団体もあるが、団体の中には、団体会員のみで活動できる範囲で活動していくといった方針の団体もある。

　　また、学生ボランティアを単にマンパワーとしてとらえている団体もあり、里山の継続的な保全や学生のためにも学生が主体とした里山活動団体が設立できないかと昨年度から検討している。

（C委員）

　　大学と連携する上で市がしっかりとビジョンを持つことも大切だと思う。在学中の参加のみで良いのか、その先の定住人口に結び付けたいのかなど。農大生は2200～2300人いるのでチラシを作成してもらえれば学生ポータルに掲載し、募集の協力をすることは可能。しかし、チラシでの募集だけではなくどのような活動しているのか、なぜボランティアが必要なのか説明会を開催するなど、地域の方が積極的に学生に呼び掛けた方が良い。

　　学生は収穫物を食べることや地域の方をサポートできることを喜ぶ。

　　また、学生主体の活動というのは難しいため地域の方が中心となる必要があるのではないか。

（事務局）

　　学生を中心とした活動主体の設立のためには大きく２つ課題があると考えている。一つは団体の構成要件についてだが、県の認定制度では団体構成員の過半数以上が地元住民である必要があり、学生を主たる構成員とした場合要件を満たすことが難しい。これは学生だけに限った話ではなく、担い手の確保が難しくなっている要因の一つで、県の会議の場等でも意見している。

　　もう一つは農地法の関係で、任意団体では農地を借りることができないという点である。

　　学生ボランティアの募集に係る説明会開催について前向きに検討していきたい。

３　その他

４　閉会